

## 第2回徳島市まちづくり総合ビジョン推進評価委員会 会議録（要旨）

日 時 平成29年8月2日（水） 午前10時～午後0時15分  
場 所 徳島市役所8階 庁議室  
出席者 委員7人、担当部局職員、事務局

### 1 基本目標「つなぐ」に属する施策の評価について

（事務局）

基本目標「つなぐ」まち・とくしまの概要、「つなぐ」に属する施策の事前評価の概要について説明。

（委員長）

最初に、事前評価を担当していただいた委員から、事前評価のご説明や特に気になる部分など一言いただきたい。

（委員）

感想としては、先ず福祉に関しては、今後もまだまだ必要な施策であるので力を入れてほしいということ、教育については、設備面が他都市に比べて遅れている現実があるので、充実するよう取り組んでほしいということである。

（委員）

それぞれの事業を幅広くできているが、昨日の話でも出たが、広報面が弱い印象がある点が気になったところである。

（委員長）

福祉の話、教育の話、それから広報のご意見をいただいたが、これから事前評価を踏まえながら各施策について、意見交換を行いたい。

### 施策1-1 子ども・子育て支援の充実

（委員）

待機児童などの問題は、年度により多少、状況が変わると思う。ある年度は達成できたが、ある年度は達成できなかったなどの場合、状況をきちんと確認しながら、継続して取り組んでいただきたいと思った。

（委員長）

待機児童数は、成果指標に設定されており、一番大きな目標である。数字自体は、全国的に見て、それほど多くない数字ではある。

（委員）

待機児童数は少ないとは言え、個々の家庭にとっては重要な問題なので、力を入れてほしい。

**(委員)**

家庭が希望する保育所に入ることができないなど、マッチングの問題と考えていいか。担当部局は、どのように分析されているか。

**(担当部局)**

保育所の入所については、保護者の方の住所、通勤先などを踏まえて、通勤状況の沿線で案内して、決めているところであるが、なかなか希望する保育所に入ることができない場合が、どうしても出てくる。

全体で見た場合、定員に達していない保育所もあるのが現状である。

**(委員)**

子育て応援イベント「おぎゃっと21」について、時期や場所など内容を大まかに教えていただきたい。

**(担当部局)**

「おぎゃっと21」は、ゴールデンウィークの5月3日、4日にアスティとくしまで開催している。平成13年以降毎年、開催している。

**(委員長)**

参加者数も多く、良いイベントに育ったと思う。

この施策については、それぞれ実績がでており、順調な印象がある。

評価は「A」とする。

～異議無し～

**施策1 - 2 学校教育の充実**

**(委員)**

この施策に関しては、目標に達していない項目もみられ、できるだけ目標の達成を目指してほしい。特に、ALT（外国語指導助手）を派遣する事業については、国際化の時代において、小さい頃からネイティブの発音を聞くことはとても大事なことで、しっかり取り組んでいただきたい。

**(委員)**

全体としての進捗状況は「B」となっているが、継続していくことで、解決していくのではと思い、評価したところである。

**(委員長)**

この施策については、担当部局の方々が、厳しく自己評価されて「B」をつけられているが、少し目標に達していない状況が見受けられる。

**(委員)**

ALTの目標「派遣充足率」が何のことか分からないのだが、希望されている人数に対する割合か。母数は何か。

**(担当部局)**

小学校（5・6年生）の各学級に月2回程度、中学校（全学年）の各学級に月1～2回程度派遣することとしているが、その時間数に対する充足の割合である。

A L Tの数が足りないので、目標に達していない。

**(担当部局)**

9月以降、A L Tを4人増員する。年度計画により増員を依頼しており、年次的に目標の達成を目指しているところである。

**(委員)**

A L Tが不足している理由は、予算の問題か、A L T資格者・希望者がいないという問題か。

**(担当部局)**

A L Tは、総務省・外務省・文部科学省それぞれが出資している団体（J E T）の予算による派遣となっており、予算の問題である。市長や教育長が国に対して、この予算の確保について要望に行っているところである。

**(委員長)**

評価は「B」とする。

～異議無し～

**施策1 - 3 教育環境の向上**

**(委員)**

未着手が2事業あり、判定に窮したが、真ん中の評価の「B」とした。

家庭で洋式トイレ・冷房が普及している中、学校では整備できていない、驚くような数字が出てきて、どうなのかと感じた。予算との兼ね合いもあるが、徳島市の子どもたちの学力向上のためにも、良い環境を整備していただければと思った。

**(委員)**

未着手が多いので、「C」とした。

予算の問題で、逆に予算があれば進んでいくことなのかなと思う。

とても暑い中、冷房がなければ子どもたちが可哀相なので、ぜひ整備を進めていただければと思う。

**(担当部局)**

財源の問題がある中、空調設備の整備については、幼稚園・中学校は今年度中に全て行うこととしており、小学校も来年度・再来年度に整備を行う計画である。トイレの洋式化については、全国平均よりも低い状況にあるが、順次進めていきたい。

自主財源が捻出できない中で、市長や教育長が国に対して、要望に行っているところである。

(委員)

他市町村の事例で、保護者が負担する形で、整備を進めているという話も聞いたことがあるが、徳島市はどう考えているか。

(担当部局)

公立小学校なので、設備の整備を保護者に求めるのは難しい、義務教育なので求めることはどうなのか、と考えている。

事例で出された自治体では保護者の理解を得られたのかもしれないが、保護者の賛同を得られた一部の学校にだけ対応するというのは、理解を得られにくいのではないかと思う。

(委員)

確かに、学校数が限られている自治体と、多数の学校がある徳島市では状況が違うので、一部だけ整備すると、反対の声もあるかもしれない。

トイレの洋式化について、全てを洋式に変えるつもりか。和式を好む人もいると思うが、洋式化率はどれくらいを目指していくつもりか。

(担当部局)

まずは全国平均に達するようにしていきたいが、平成38年度に70%以上を目標として目指したい。

(担当部局)

和式もいくつかは残ると思う。

(委員長)

事前の評価は、「B」と「C」で分かれているが、方法を見直してほしいというほどではなく、今後早く進めてほしいという話なので、評価は「B」とする。

～異議無し～

#### 施策1-4 青少年の健全育成

(委員)

不登校やひきこもりがちの児童生徒を対象とした事業（「学生メンタルサポーター派遣事業」「不登校問題等適応指導推進事業」）について、数値的に物足りなく感じたので、もう少し重点的に対応していただければと思う。

成果指標の「不登校児童の割合」が、小学校では0.3%であるのに、中学校では2.12%と急激に上がっている。小学校のときに、もう少し対応できていれば、中学校の割合をもっと下げられるのではないか。ぜひ早い時期からの対応に努めてほしい。

(委員)

進捗状況が「A」が多く見られ、予定通り進捗していると思ったため、評価を「A」としていたが、今の委員のご意見を聞いて、「B」が適切であると思った。

(委員)

「いきいき家庭教育応援事業」の事業概要に「家庭教育支援チーム」とあるが、どのような内容か。チームとしているのに、相談者数が75人しかいなかったの、お聞きしたい。

(担当部局)

チームというのは、教育集会所で、集会所主事(計10人)や箱庭療法を行う心理カウンセラー(1人)等が行っているものである。

(委員)

「不登校問題等適応指導推進事業」の目標「適応指導教室の利用率」とあるが、これは何の数値か。

(担当部局)

全不登校児童の中で、どれくらいの児童が施設を利用しているかの数値である。

(委員長)

評価は「B」とする。

～異議無し～

## 施策2-1 健康づくりの推進

(委員)

検診の受診率は、最初のステップとして大事なもので、ここを上げていくことがポイントになるのでは。

(委員)

「がん検診事業」以外は全て「A」となっているので「A」としたが、「がん検診事業」の目標について教えてほしい。目標の検診受診率は、市の事業に関するもののみであり、例えば企業で行っている検診など市の事業以外の数値は含まれていないのか。

含まれていないならば、本来はもっと受診率は高いはずであり、この数値に拘らなくてもいいのではないかとも思う。

(担当部局)

受診率は、分母は対象人口、分子は徳島市が実施する検診の受診者であり、企業等が実施する検診の受診者は含まれていないため、ここに含まれていない方の中にも、検診を受けられている方は、多くいると思う。

なお、企業等が実施する検診受診者数の詳細については、徳島市は把握していない。

(委員)

がん検診の制度自体の効果を判定しようとするならば、その数値も把握できていた方がいいのではないか。

この事業には多くの費用がかかっているが、がん検診の費用だけで、これだけかかっ

ているのか。

**(担当部局)**

がん検診の費用である。

**(委員)**

健康診断は、一定程度の規模の会社の場合は、社会保険庁の義務付けで、1年に1回、実施しており、会社はそのための補助などを行っているはずである。

通知先を選別することで、コストを抑えることはできないか。

**(委員)**

目標値の5%に理由はあるのか。全員が受診する必要はないかもしれないので、どれくらいの割合の方が受けるのが効果的なのだろうかと思う。

この事業には、コストが多くかかっており、勿体ないと思うが、通知先のスクリーニングはしないのか。

**(担当部局)**

40歳以上の方全員に受診の案内を通知しているところである。

**(委員長)**

徳島市が設定しているこの目標が本当に適切かどうか分からない状況なので、全体の目標（成果指標）にどう貢献しているのかが、みえない。

「がん検診事業」が不要であるとは決して言えないが、設定している目標が、みんなが納得できるようなものになっていればと思う。

お勤めの方は企業等で検診を受けられるが、そうでない方はこういった事業がないと検診を受けられない、その意味で成果はあると言え、事業としてはきちんとされているのだが、目標については、改善できるといいと思う。

たとえば、50歳以上なら1人1回は受けているとか、そういったものを調べてやってほしい。

「がん検診事業」については、今後検討いただければと思うが、評価は「B」とする。

～異議無し～

**施策2 - 2 地域福祉の充実**

**(委員)**

どの数値も概ね目標値に達しているので「B」とした。

**(委員)**

進捗状況が概ね「B」なので、自分も「B」とした。

**(委員)**

第1回委員会でも話したことであるが、どの程度の数値が相応しいのかが分からない。他都市の数値があり、比較して評価することが相応しいと思うのだが、他都市のデータ

はないのか。

(担当部局)

他都市がこういった指標を用いているかどうかなどの状況は分からない。

(委員)

事業をただ単に行っている数字を示しているだけであり、どれくらいの水準かを判断しがたい。何となく惰性で行ってしまっているように見えてしまう。

(担当部局)

目標値を設定すること自体が非常に難しい面がある。

(委員)

それは分かるが、例えば、人口当たりのボランティア参加率などが示されると、分かりやすくなるのだが、このように実数だけを示されても、これが、大きいものなのか、小さいものなのかが全然分からない。

人口が同規模の都市では、どれくらいのボランティア数があるなど、全体的な水準を示してもらえると分かりやすくなるのだが、そういったものはないのか。

(担当部局)

今はそういった数値はない。

(委員長)

ボランティア団体数が増えているのは分かるが、それが十分なのかどうか分からない。第1回委員会でも言っているところだが。

評価は「B」とする。

～異議無し～

### 施策2 - 3 高齢者福祉の充実

(委員)

進捗が思わしくない項目もいくつかあるので、努力してもらえたらと思う。

(委員)

様々な高齢者がいらっしゃる中で、それぞれに行き届いた事業を行っており、バランスのとれたものとなっている印象である。

(委員)

「介護予防・生活支援サービス事業」の事業概要に、多様な生活支援サービスとあるが、それはどういう意味なのか。

(担当部局)

要介護に陥る手前の要支援者に対して、費用の効率化を図るため、住民主体による生

活支援サービス（ごみ出し、掃除、洗濯等）などを行っていかうとするものである。

（委員）

この事業の目標にある「多様なサービスの割合」は、どのような数値か。

（担当部局）

ホームヘルパーやデイサービスの件数を7割にして、住民主体によるサービスなどの件数を3割にすることを目標にしているところである。

（委員）

この施策の「高齢者の健康づくりの推進」と施策2-1の「介護予防普及啓発事業」は、担当課が違うようだが、別の事業なのか。

（担当部局）

別の事業である。介護・ながいき課の事業は、NPO法人と協働して市内の地区コミセンなど20箇所週1回～3回、行っているものである。

（委員）

これらは似ている事業だが、目的、行っていることやターゲットが異なるのか。

（担当部局）

対象は同じだが、介護・ながいき課の事業は地域で行っているが、保健センターの事業は元気な方に保健センターなどに来てもらって介護予防事業を行っており、実施場所が違う。また、その目的も少し違っている。

（委員長）

評価は「B」とする。

～異議無し～

#### 施策2-4 障害者福祉の充実

（委員）

この施策は、目標値に達していないものもあるため、「B」とした。

気になることは、成果指標の「障害者が地域で安心して生活できると感じる市民の割合」が36.8%という部分である。障害者が安心して暮らせるまちづくりは、地域の方の協力なしではできないが、市民の方がこういった感覚を持っているのであれば、もっとみんなが安心できる地域づくりを進めていく必要があると感じたところである。

（委員）

成果指標や進捗状況から判断して「B」としているが、目標の設定の仕方については気になるところもある。例えば、「相談支援事業の充実」について、必ずしも、相談者数が増えることが良いことではないように感じたので、目標の設定の仕方は、もう少し考えられた方がいいのではと思った。

(委員)

「障害者の就労の促進」について、事業の成果・課題によると、実質は就労者は増えているということか。先程の委員の質問(目標の設定の仕方)とも重なる話ではあるが。

(担当部局)

障害者の就労促進については、この事業で目標設定している就労移行支援と就労継続支援A型、就労継続支援B型の3つのサービスがある。

事業目標の就労移行支援事業の利用者数は、少し目標に達していないが、これは、就労継続支援A型に関する事業所数及び利用定員が増加し、就労継続支援A型に利用者が流れたためである。

(委員)

合計で見れば、目標に達しているとみていいか。こちらが増えたから、こちらが減ったという話より、それを受けて、どのように考えられているかを聞きたい。

(担当部局)

就労移行支援事業を利用される方が、一般就労に繋がる率が高いので、この事業の利用者数を目標に従って、増やしていきたいと考えている。

(委員)

就労継続支援A型が増えるのは、望ましくないということか。

(担当部局)

そうではなく、多様なサービスが提供された結果であると考えている。

(委員)

「障害者福祉等啓発事業」について、周囲の正しい理解や認識があることが重要であると思うが、講演会等の実施頻度について教えてほしい。

(担当部局)

講演会は、12月の障害者週間中に1回、市民の方を対象に、講師を招いて実施している。

また、11月頃に1回、2～3か所程度の事業所訪問を行い、作業見学や障害者の方とのふれ合いの機会を設けている。

(委員長)

ターゲットが明確であり、そこに届いていれば、参加者数等が少なくても価値があるが、一般的で全員対象で、この数値はどうかと思う。少ないから駄目というわけではないが、先程と同様で、この数値が十分なのかどうか判断が難しいと感じる。

評価は「B」とする。

～異議無し～

## 施策2 - 5 社会保障の充実

### (委員)

いずれの項目もクリアしているので「A」としたが、保険料の収納率など、まだまだなところもあるので、これらはもっと頑張っていたきたい。

### (委員)

進捗状況、成果指標ともに順調に進んでいるので、「A」とした。

### (委員長)

評価は「A」とする。

～異議無し～

## 施策3 - 1 人権尊重・多文化共生社会の実現

### (委員)

この施策は、一部事業について下回るものがあつたため、「B」とした。事業は多岐にわたっているが、今後一層、徳島にも様々な国の方が訪れるようになると思うので、対応できるよう事業を進めてもらいたい。

### (委員)

この施策は、基本的に継続していくことが大事であると思うので、きちんと続けてほしいと思う。

### (委員)

「人権啓発リーダー等の育成」について、500人と少ないように感じるのだが、この事業はどのような人をターゲットにしているのか。

### (担当部局)

人権啓発を進めていく地域の拠点は公民館であるため、公民館を中心に地域の中で、様々な人権問題に取り組んでいただける人をリーダーとして養成する。また、企業においては、企業の中の人権啓発を担当している人をリーダーとして養成する。

こういった人達をターゲットにして、様々な研修会に参加して頂こうとしている。

### (委員)

企業数などは把握できると思うので、目標値は出せそうである。

### (担当部局)

企業、地域それぞれのところで数人という形になる。

### (委員)

事業をせっかく行っているので、研修に全然来ていない企業を把握して、アプローチしていけるといいのでは。

(担当部局)

役割分担があり、労働局が企業の情報を集約している面もあるが、国等の機関とも連携・協議できればと思う。

(委員長)

評価は「B」とする。

～異議無し～

施策3 - 2 男女共同参画社会の実現

(委員)

女性センターの認知度が上がり、相談件数なども増えてきているので、「B」とした。

(委員)

未着手の事業もあるが、同じく「B」とした。女性の社会進出の裏で、男性の家庭進出も重要である。男性に向けた事業も必要になってくると思う。

(委員)

そもそも男性が女性がと分けて書かれること自体どうかと思うが、それぞれの取組を先ずは継続していくことが大事である。

(委員)

意識の高い人が講習会に参加すると思うが、そういった人からどのような情報を吸い上げるかが大事なのでは。

(委員)

成果指標「女性が働きやすいと感じる市民の割合」について、目標値が現状値よりも減っているのはどういうことか。

(事務局)

目標値は昨年度に設定したのだが、今年度、市民意識調査を実施して、現状値が出たところ、現状値が目標値を上回る結果となった。目標値については、適宜、見直していきたいと考えている。

(委員)

目標値は70%くらいを目指してほしいと思う。

県の審議会などでは、女性委員の割合が半数を超えているものがあるが、徳島市の審議会も割合を増やしてほしいと思う。

(委員)

施策としては手探りなのだが、データ的に見ると、起業家の率など、徳島の水準は全国的に見て、高いものがある。

(委員)

徳島の広告宣伝として、女性の社会進出や活躍を発信している状況の中で、肝心の徳島市の対応が必要ではないか。

審議会等への女性委員の登用は、予算もかからず、決めるだけで対応できるものなので、10年も待たなくても、早く対応してほしい。

(担当部局)

目標値を40%としているが、基本的にはもっと増やしたいと考えている。

ただし、他都市の事例などを見ると、審議会などに参加したい女性が限られているため、同じ方ばかりが色々な審議会に参加しており、かつ、お忙しい方が多いという状況にあるため、なかなか割合の数字を上げることが難しいと感じている。

(委員)

女性の社会参加率については、徳島は結構威張れるんだという情報があるが、そのことも踏まえて、登用率を上げていただくと、もっと威張れるのになと思う。

(委員)

高い参加資格などを求めなくても、一般市民の方の中から行政に関心のある方を広く募り、生活者・消費者の視点で参加してもらえたら、割合は上がると思う。

(委員長)

女性が社会参加しやすいまちであるということをPRしていくことは、シビックプライドにつながる。

この施策は、手探りの印象があるが、女性の社会進出に関することなどについて、指標や事業など見せ方を、工夫してもらえると、この施策がもっと良くなると思う。

評価は「B」とする。

～異議無し～

( 小休止 )

### 3 基本目標「まもる」に属する施策の評価について

(事務局)

基本目標「まもる」まち・とくしまの概要、「まもる」に属する施策の事前評価の概要について説明。

(委員)

この分野は、市が予算を付けて整備すべきものと制度と住民が参画することで成り立つものとのバランスが非常に大事と思っている。特に住民が参画することで成り立つものの比重が大きいということもあり、そこを評価する尺度、その情報があまりでないことが懸念された。

(委員)

この資料を見ても何が起きているのかよくわからなかった。

本当の最終目標が一体何なのかというところで、そこを見据えてやっていただいているのだろうか、それに対して今動いていることがどれほど効果があったのか、そのコメントをしていただければ腑に落ちるが、単純に数字が伸びている、数字が減っている、それだけを議論しているというような感覚になった。

#### 施策5 - 1 安心して暮らせる市民生活の向上

(委員)

防犯灯のLED化は目標を達成できていると思う。

市民の意識向上という点では、各種講座の受講者の高齢化・固定化が進んでいることが心配される。その点についての運営が改善されないと効果的にはなっていないと思う。

(委員)

講習会や講演会をやることに意義はあると思うが、どうやって効果に結び付けるかというところだと思う。ターゲットをもっとはっきりさせて、その方の受講率がどれくらいあるのか、たとえば65歳以上の方で5年とか10年に1回でも受講した人がどれくらいいるのか、というような情報がないと、ただ単に同じ人が同じことを聞いているということになりかねない。

(委員長)

講習会の効率化に向けたターゲットとか目標像、誰に訴求していくかの確認みたいな工夫をしてほしい。

これは、この施策に限らず、すべての講習会について共通するものである。

評価は「B」とする。

～異議無し～

#### 施策5 - 2 住宅環境の整備

(委員)

避難路沿いの建物の耐震化がかなり遅れていることが懸念される。市だけの問題ではないので、早く県など関係機関と協働して進めるべきである。

(委員)

実際には難しい部分ではあるが、工夫してやるべきところが結構残っているということとでCとしている。

特に空き家についても未着手であるが、対策を打たなければならないということで、これから実際どう実施していくか、何か方針が決まっているものはあるのか。

(担当部局)

空き家対策計画は現在策定中であり、今年度中に策定する予定となっている。具体的な方向性はまだみえていない。

活用の部分はかなり難しい状況と考えており、危険空き家の除却を優先したい。

(委員)

固定資産税に関して空き家の認定の仕組みがあると思うが、その取組は進んでいるのか。

(担当部局)

特定空家に認定されると固定資産税が6倍になるなどと言われているものだが、特定空家の認定まではなかなかいかない。

(委員)

その前の段階のいかに有効活用してもらえるかが重要かと思う。

大きな目標として空き家対策をどう全体として進めていくかが重要なので、そういう視点を持って取組を進めていただきたい。

(委員長)

評価は「C」とする。

～異議無し～

### 施策5 - 3 生活道路の整備

(委員)

橋りょうの耐震化は不十分と感じる。急いでほしい。

(委員)

この施策はゼロ予算事業が2つあるが、どのように事業を実施するのか。

(担当部局)

橋りょう耐震化は、平成28年度末で16橋を終えている。重要路線を構成する橋りょうの耐震計画を策定しており、約10年間で18橋を予定している。国の交付金を活用していきたいので、これに基づく実施となる。

ゼロ予算事業のうち、すいすいサイクル事業については、ガイドラインが改定されたので、現在徳島河川国道事務所と協議をしている。今後、委員会を立ち上げ、自転車のネットワークをどうするのかを議論し、予算編成につなげていくことを計画している。

次に、道路ストックマネジメント事業は、平成27年から28年でシステムを構築しており、これからデータ入力をしていく。このソフト事業は、国の交付金が得られる状況でないので、予算についても今後工夫しながら進めていきたい。

(委員)

橋りょう耐震化も結局は国の交付金に縛られてしまっているという状況だが、その辺の獲得も含めて頑張っていたきたい。

(委員長)

評価は「B」とする。

～異議無し～

#### 施策5 - 4 上水道の整備

(委員)

県外の人には、水道水が普通に飲める、おいしいということがよく言われる。市民の水道に関する安心度は非常に高いものと思う。そういう点で鉛製給水管の対策が遅れているのが気になる。

鉛製給水管の解消について、毎年1,000件以上の解消を目標としているが、残りは何件あるのか。

(担当部局)

平成28年度末で9,832件である。給水件数は全体126,632件で、残存率は7.8%となっている。

(委員)

耐震化はどうなっているのか。

(担当部局)

平成38年度で45%、次期水道ビジョンの期間の始まる平成31年度では37.7%を目指している。

(委員)

重要管路の耐震化はきっちりやってほしい。

次期水道ビジョンの策定に関して、他市町村では値上げの議論も出ているが、更新計画など、どのように認識しているか。

(担当部局)

次期水道ビジョンの策定については、現行の水道ビジョンのフォローアップをしながら進めているところである。

総務省から経営戦略を立てるよう指示されているので、水道ビジョンと合わせて策定する予定である。

(委員)

市民の意識を変えないといけない。水道管の老朽化がかなり進んでいるのに更新に必要なお金が積み立てられていないということが他都市ではよくあり、誰が更新費用を負担するのかの話が鍵になってくる。

そういう窮状を早めに出して、訴えていくべきである。

(委員長)

評価は「B」とする。

～異議無し～

#### 施策6 - 1 環境の保全と向上

(委員)

自然環境に関する市民満足度は非常に高い。

市民の意識改革という点では、啓発講座や事業への参加者が固定化、高齢化が進んでいないか懸念される。意識改革を促すためには、思い切った運営の工夫や改善が必要である。

徳島市民は環境に関して意識が高い、というのは市のブランドを考えるうえでも1つの強みになると思うので、工夫が求められるところである。

(委員)

環境報告書の作成、公表で「実施」とあるが、報告書にはいろんな目標値が含まれていると思うので、そういう数値を見える化した方がわかりやすい。見せ方を工夫してほしい。

エコ診断の取組数が多いのかどうか判断できない。全市民からすると少ないが、毎年省エネ行動が定着する人数の増分とみるべきなのか。

消費者教育との話にも繋がってくるが、連携も大事である。

工夫してしなければならないところが結構あると思う。

この施策は、評価は確かに高く、徳島は環境で売ってきたまちなので、頑張してほしい。

(担当部局)

SNSなど、市の取組情報発信について工夫していきたい。

(委員)

評価については、激励の意味を込めて「A」にしてほしい。

(委員長)

評価は「A」とする。

～異議無し～

#### 施策6 - 2 循環型社会・廃棄物処理の推進

(委員)

市民1人1日当たりのごみ排出量は改善されてきているがまだ十分ではないと思う。平成38年度目標は906gとなっており、1,000gを切るのはなかなか難しいと思うが頑張してほしい。

リサイクル率が下がっていることの原因は把握しているか。また、分別の徹底に力を入れる必要があるのではないか

(担当部局)

リサイクル率がかなり低下していることについては、危機状態にあると認識している。

低下の理由としては、リサイクル率にかなり大きく影響する古紙類が高値で取引されているため市の収集に入らないことや、若い人が新聞を取らないことが考えられる。

分別の徹底も重要と思っており、平成26年にエコステーションを設置し、分別回収を進めているとともに、小学生などに来てもらって分別の啓発に取り組んでいる。

**(委員)**

リサイクル率の分母は何か。

**(担当部局)**

市に搬入して処理したごみの量である。

このたび策定した新たな一般廃棄物処理基本計画ではリサイクルに向けたSNSを活用した情報発信に取り組むこととしている。また、新たな施設では灰をセメントの原料にするなどにより、リサイクル率を向上させたい。

**(委員)**

循環資源は循環して使っていく、使えなくなったら適正に処分する、という2本立てが必要である。

**(委員)**

リサイクル分を除いたごみの量を減らす、という目標の方がよいかもしれない。

**(委員)**

ごみの収集日が分かれているが、1回ごみ出しを忘れると家に物がたまってしまうので、どうしても混ぜて捨ててしまうのではないかと。収集ペースを上げれば、分別しやすくなると思う。

また、リサイクルボックスを駅前などに設置してもらえたら不法投棄も減るのではないかと。

**(委員)**

ごみの収集日はすぐ忘れてしまうのだが、パターン化されているのか。

**(担当部局)**

4ブロックに分けて、同じごみは同じ曜日に回収するサイクルは作っている。

しかし、非常にわかりにくいというところもあるので、ごみの収集日は、紙やPDFで配布している。他市町村で導入されているアプリについても検討中である。

**(委員長)**

評価は「B」とする。

～異議無し～

### 施策6 - 3 生活環境の向上

#### (委員)

不法投棄の減少やポイ捨て防止の啓発は効果を上げているが、狂犬病の予防接種率が低下していることは問題である。

ポイ捨ては、町を訪れた人がきれいな町と思うかどうかの要因の1つになるものである。観光やメインストリート、中心市街地の整備、都市計画などそれら全部を含めた視点の中に、「ポイ捨てをしないまち」というのも要素として入れていくと非常によいのではないか、ということをご提案したい。

#### (委員)

不法投棄の通報件数にパトロールによる発見件数も含まれるということなので、この件数が減っていくのが良いことと理解した。

実際に不法投棄を減らすというか、不法投棄があった場所をどう改善するか、というのは悩ましいところだと思う。NPOの活動など見ていると結構重要な課題と思うので、頑張ってもらいたい。

パトロールのほかにはどのような取組をしているか。

#### (担当部局)

不法投棄について市民から通報等があった場合、ごみの回収に重点を置く場合と、不法投棄防止看板等を配布して町内で啓発を行っていただく場合がある。

常習的なところは定期的にパトロールし、発見次第すぐに回収することとしている。

#### (委員)

民地はどうしているのか。

#### (担当部局)

民地については、本人に管理を求めるところであるので、本人に処分をお願いすることとなる。

また、山の斜面や海岸については、関係機関と連携して対応することになる。

#### (委員)

件数自体の問題もあるが、観光地とか目につきやすいところはどうにかしてほしい。

#### (委員長)

評価は「B」とする。

～異議無し～

### 施策6 - 4 下水道の整備

#### (委員)

市民による一斉清掃が定着しているのでBにしている。

近年ゲリラ豪雨など都市水害が増えてきているので、地域性や優先順位を勘案して浸水対策をしっかりとしてほしい。

(委員)

一斉清掃は地域活動の最たるものである。市民団体との連携はできているのか。

(担当部局)

一斉清掃は町内会にお願いし、発生した土砂は市が撤去している。

市民団体との連携は進んでいない。

高齢化の進展により、もうできないと言われているところもある。

(委員)

町内会が機能していないところを把握していれば、その地域について市民団体や学生団体を募集するなどできるのではないか。

(担当部局)

考えてみたい。

(委員長)

評価は「B」とする。

～異議無し～

#### 施策4-1 防災対策等の強化

(委員)

津波避難施設の整備、避難計画の策定は着実に進んでいるが、市のBCPについては、何より早くしてほしい。

(委員)

事業の進捗状況がわからなかったので評価を保留していたが、事前の質問に対してかなり詳しく回答してもらっていて、しっかり取り組んでいることがわかった。

(委員長)

評価は「A」とする。

～異議無し～

#### 施策4-2 消防・救急体制の充実

(委員)

子どもを中心とした教育・啓発活動は非常に重要で、着々と進んでいることは評価したい。現実的に住宅用の火災警報器の設置率がまだまだ低いのではないかと思う。もう少しパーセントを上げる取組を徹底することが必要ではないか。

(委員)

住宅用の火災報知器の設置は伸び悩んでいるのか。

**(担当部局)**

住宅用の火災報知設備について新築の建物に設置することが義務付けられたのは約10年前である。平成23年には既存の住宅についても義務付けられた。

消防局としては、平成20年に高齢者や障害者の方に取付を無料で行うなどの取組を行い、23年度には61%に、現在78%と伸びてはいる。

しかし、義務が火災予防条例による努力義務であって罰則がない。そこが伸び悩んでいるところである。

今後、火災報知器の設置による奏功事例などを説明しながら重要度について、今まで以上に広報、周知していきたい。

**(委員)**

取り締まりというより、自分の身を守るためのものなので、ちゃんと情報提供するとそこそこ設置してくれるのではないかと。情報を知らない、必要性が認知されていない、ということと思う。

**(委員)**

設置が義務化されてから10年になるので、メンテナンスの啓発も必要と思う。

また、寝室や通路だけでなく、台所にも設置が必要なのではないか。あと一押し安全に関する啓発が必要なのではないか。

**(委員長)**

評価は「B」とする。

特に火災報知器のところの工夫をしてほしいと思う。

～異議無し～

**施策4-3 医療環境の充実**

**(委員)**

何を基準に判定すればよいのかわからなかった。

夜間休日における診療体制の実施は市民からすると当たり前のことであり、判定できる情報がほしい。

**(委員)**

受診患者数とか出してくれないと、何ができたのかわからない。

**(担当部局)**

平成28年度の患者数は17,324人であり、利用は伸びてきている。

**(委員)**

どれくらいの数字になればよい、というものはあるのか。

**(担当部局)**

利用が伸びたらよいというものでもないと考えている。

必要な時に必要な方が受診できる体制を維持することが重要と考えている。

(委員)

初期臨床研修医の志望者が少ない理由は何と考えているか。

(担当部局)

若手の医者は都会志向が強く、徳島県全体の問題として医師確保は大きな課題と考えている。その中でも地域医療に根差した魅力あるプログラムを考えている。

(委員)

カリキュラム型での連携はあるのか。

(担当部局)

ある。

(委員)

実習でのコミュニケーションが後の臨床研修につながっていくと思う。

(担当部局)

実習で市民病院の雰囲気や診療体制を知っていただき、後期臨床研修でも市民病院に来ていただきたい。

(委員)

実習者を増やしたり、実習の時間を増やしたり、実習の仕組みを変えとか、そういう部分が重要かと思う。いざ研修先を選ぶ段階となると、既に行先は決まってしまうような気がする。

(委員長)

やるべきことはやっているということが明確になったので、評価は「A」としたい。

～異議無し～

#### 推進評価委員会の運営について

(委員)

シートにまとまっているのはわかりやすくなっているのだが、もう少し詳しい情報があった方が、見て腑に落ちると思う。各事業1枚程度のものが参考資料としてあってもよいと思う。各事業の見える化、ぱっと見て、なるほどとわかるものを付けていただくことはできるのではないかと思う。

(委員)

重点項目から書いてもらった方が評価しやすい。また、重点事業は3つくらいにしてほしい。並べ方の工夫も重要と思う。

#### 4 閉会

(事務局)

企画政策局長あいさつ

総合ビジョンに関する今後のスケジュールを説明